

高等学 校

平成23年度

# 教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	4
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	6
VI	研究の成果	18
VII	今後の課題	23

研究主題	<b>「思考力・判断力・表現力を育み、 『学び』を活性化させる学習指導の工夫 ～「体育」における言語活動の質的な向上を目指して～」</b>
------	---

## I 研究主題設定の理由

平成19年6月に公布された学校教育法の一部改正では、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」と規定し、学力の重要な要素を、①基礎的・基本的な知識・技能、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③学習意欲であると示した。

知識基盤社会が到来し、グローバル化が進展する中、21世紀を生きる生徒には、将来を見通し社会で自立的に生き抜くための「生きる力」を育むことがますます重要となる。しかし、PISA調査等からは、我が国の生徒には「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題」、「知識・技能を活用する問題」に課題があることが明らかになった。それを受け、平成20年1月に中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（以下、「H20 答申」とする）では、「思考力・判断力・表現力等を確実にはぐくむために、まず、各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。」とされた。

こうした現状を踏まえ、学習指導要領改訂は、①教育基本法等で明確になった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること、②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること、③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること、を基本的なねらいとして行われた。第1章総則第1款「教育課程編成の一般方針」には、「生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実する（後略）」とあり、基礎的・基本的な知識・技能を学習の基盤とし、その基盤の上に思考力・判断力・表現力等を育むことの重要性が示された。

高等学校教科「保健体育」・科目「体育」においては、自己の状況に応じて体力の向上及び健康の保持増進を図るとともに、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続できるようにし、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てることを目標としている。その目標達成のためには、各学校において、体力・運動能力の向上を図り、また、学習指導要領を踏まえて学習内容等の改善を図ることが求められる。

本部会では、思考し、判断し、表現する活動の基盤である言語活動について、学習カードなどの学習資料や教師と生徒の相互作用等を工夫して質的な向上を図ることで、「学び」が活性化し「確かな学力」の定着・向上を図ることができるとし、研究を進めることとした。

## Ⅱ 研究の視点

### 1 思考力・判断力・表現力の位置付けを明確にする

#### (1) 学力としての「思考力・判断力・表現力」

中央教育審議会は平成15年10月の「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について（答申）」において、「『確かな学力』とは、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などまでを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力」とし、思考力・判断力・表現力等も学力に含まれることを明確に定義した。さらに、「知識や技能と思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲などは本来相互にかかわりながら補強し合っていくものであり、『確かな学力』をはぐくむ上で、両者を総合的かつ全体的にバランスよく身に付けさせ、子どもたちの学力の質を高めていくという視点が重要である。」として、知識・技能及び思考力・判断力・表現力の両方の関わりを踏まえて育成することが重要であると指摘している。学習指導要領第1章総則第1款1においては、平成19年に改訂された学校教育法の第30条第2項を受けて、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を、育成すべき学力の要素の一つとして位置付けた。

#### (2) 科目「体育」における「思考力・判断力・表現力」

科目「体育」の目標は、「運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる」と示された。

「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力」とは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを深く味わおうとする主体的な態度、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲、健康・安全への態度、運動を合理的・計画的に実践するための運動の技能や知識、それらを運動実践に活用するなどの思考力、判断力のことである。そして、その育成のためには、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力の向上を図ったり、生徒に筋道を立てて練習や作戦を考えさせ、改善の方法などを互いに話し合う活動の場面を通じて論理的思考力を育んだりすることが求められる。高等学校においては、学習に対する主体的な取組を促しながら、それらを育成していくことが重要であり、高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編（以下、「解説」とする）では、科目「体育」の各領域に共通して、高校入学年次は、「自己の課題に応じた運動の取り組み方」を、その次の年次以降は「自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方」を示している。

卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するためには、多くの運動領域の中から、自分に適した種目を選択させるとともに、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げ、課題解決のための思考力・判断力の向上を図ることが求められる。「解説」では、「思考・判断」について、「体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断」、「体力や健康・安全に関する思考・判断」、「運動実践につながる態度に関する思考・判断」、「生涯スポーツの設計に関する思考・判断」に分類されており、技能（「体づくり運動」は運動）、態度、知識の指導内容と関連させて、指導していく必要がある。

## 2 言語活動の質的な向上を図る

### (1) 「思考力・判断力・表現力」の育成のための言語活動の充実

「H20 答申」では、知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動として、① 体験から感じ取ったことを表現する、② 事実を正確に理解し伝達する、③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする、④ 情報を分析・評価し、論述する、⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する、⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる、を例示し、このような活動を各教科において行うことが、思考力・判断力・表現力等の育成にとって不可欠であると指摘している。例示されている学習活動は、その全てが言語を介在しており、「思考力・判断力・表現力等」の育成は、言語活動を充実させることによって実現するとしている。さらに、学習指導要領においては、「各教科・科目等の指導に当たっては、生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。」とし、国語科のみならず各教科等で言語に関する学習活動の充実を図ることを重視する必要性が示された。

### (2) 「体育」における言語活動

学習指導要領第6節保健体育第2款第1体育の「3の(6)」では、「筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動が充実するよう配慮するものとする。」とされ、「解説」の第3章「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」第4節5「言語活動の充実」では、「単元のはじめに課題解決の方法を確認する、練習中や記録会及び競技会などの後に話し合いをするなどの機会を設ける、学習ノートを活用するなどの工夫をするとともに、指導内容の精選を図ったり、話し合いのテーマや学習の段階的な課題を明確にしたりする。」と指導内容が具体的に示されている。

## 3 研究の具体的視点

- 「解説」や国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 保健体育）」の事例等を参考に研究を進め、領域「陸上競技」のハードル走及び領域「球技」のバレーボールの指導と評価の計画及び学習指導案を作成する。

なお、「指導と評価の計画」に具体的な言語活動場面欄を設けその活動を明確に示し、単元構造図を作成し、「学習の流れ」と「評価規準と評価の方法・機会」を明らかにする。



- 校種の接続を踏まえ、既習状況の把握を行うなど、系統性のある学習内容を設定する。
- 単元目標の達成にねらいを置き、言語活動を促進・充実させ、その質的な向上を図る学習カードを作成する。また、習得した知識・技能の活用を促すための「言葉かけ」など、教師の相互作用行動を積極的に実践する。
- 検証授業を実施し、事前・事後アンケート結果を分析・考察して成果を検証する。

### Ⅲ 研究の仮説

思考力・判断力・表現力を育成するには、習得した知識・技能を学習活動の中で活用することが必要である。この活用を支えるものが言語活動であると捉え、本部会では「適切な言語活動を選択し実践するための学習場面を意図的・計画的に設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し課題を解決する学習活動を重視することで、思考力・判断力・表現力を育成することができる。」と仮説を立てた。

具体的には、科目「体育」の個人的運動領域の中から「陸上競技」のハードル走を、集団的運動領域の中から「球技」のバレーボールを取り上げ、言語活動場面を明示した指導と評価の計画や学習指導案、学習資料を作成して言語活動の機会を確保する。また、単元構成の中に学習カード等の学習資料を活用しながら、技能の習得や作戦の立案、学習の進め方などについて、提案や吟味、伝達といった相互に理解し共有する学習場面を意図的・計画的に設定する。

言語活動の充実を図り、運動という非言語的かつ個人的な過程（運動感覚的な情報やイメージ、戦術遂行に関する行動等）を、言語化・客観化して実践することで、思考力・判断力・表現力を育み、新たな技能獲得の方法や作戦の発見など「学び」の活性化につながると考え、研究を進めることとした。

### Ⅳ 研究の方法

- 学習指導要領及び「解説」から、ハードル走及びバレーボールについて、中学校との接続を踏まえ、入学年次における指導と評価の計画及び学習指導案を作成し、検証授業を実施する。その際、記録、要約、説明、論述等の具体的な言語活動場面を意図的・計画的に設定する。



#### <検証授業>

ハードル走				
	生徒人数 (男子・女子)	実施時間	クラス 数	総時数 (h)
A高等学校	18 (18・0)	1~8/8	1	8
B高等学校	26 (0・26)	1~4/8	4	16
C高等学校	113 (0・113)	1~4/8	5	20
合計	157 (18・139)			44

バレーボール				
	生徒人数 (男子・女子)	実施時間	クラス 数	総時数 (h)
D高等学校	58 (57・1)	1~6/10	4	24
E高等学校	61 (0・61)	1~7/10	3	21
F高等学校	18 (4・14)	1~2/10	1	2
合計	137 (61・76)			47

- 適切な言語活動を充実させるための学習カード等の学習資料を作成するとともに、学習課題に応じて学習の視点を明確にし、思考力・判断力・表現力を深めさせるよう、教師の相互作用行動を積極的に実践する。
- 課題や課題解決策、話し合いの内容、学習の振り返りなど、学習カードへの記載が、単元を通じて、より具体的な記述となっているかを比較し、思考力・判断力・表現力の育成について検証する。

○ 思考力・判断力・表現力に関する項目を重視した授業アンケートを作成し、1時間目終了時及び単元終了時に実施する。その結果から得られたデータを比較・分析し、生徒の変容を考察することで研究の仮説を検証する。さらに、教師の相互作用行動が、習得した知識・技能を活用する活動に有効であったかについても検証する。



<授業アンケート> 4：とてもそう思う、3：ややそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない

	アンケート項目	4	3	2	1
1	どうやったらうまくできるようになるか、考えながら運動しましたか。				
2	1の時に有効な練習方法を見付けたり、選んだりしましたか。				
3	体調やその場の状況（施設・用具等）に配慮しながら運動しましたか。				
4	仲間の良い点や改善点を伝えることができましたか。				
5	話合いの場面で、お互いが納得する結果を導き出すための関わり方を見付けられましたか。				
6	その種目を継続して楽しむための関わり方を見付けられましたか。				
7①	教師のアドバイスから運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができましたか。				
7②	それはどんなことですか？具体例を挙げてください。				
8①	学習カードを活用して、運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができましたか。				
8②	学習カードを活用して、アドバイスをすることができましたか。				
8③	学習カードを活用して、アドバイスの内容が変わりましたか。				
8④	それはどんなことですか？具体例を挙げてください。				
9	自由記述				

アンケート項目1、2は、体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断・表現、項目3は体力や健康・安全に関する思考・判断・表現、項目4、5は運動実践につながる態度に関する思考・判断・表現、項目6は生涯スポーツの設計に関する思考・判断・表現、項目7は教師の相互作用行動の有効性及び具体例、項目8は、学習カードの有効性及び具体例を調査する設問となっており、その結果について、比較検討する。

## V 研究の内容

### 1 研究構想

全体テーマ 新学習指導要領に対応した授業の在り方について

高校部会テーマ 思考力・判断力・表現力の育成を図るための授業についての実践研究

#### 教科等における「思考力・判断力・表現力」の定義

- 思考力 これまでの学習や課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間、チームの課題を設定したり見直したりすることができる力
- 判断力 自己や仲間、チームのねらいや技能・体力の程度に応じて、有効な練習方法や作戦及び行い方等を選択できる力
- 表現力 設定した課題や選択した課題解決の方法について、言葉や文章、身体表現等を通じて、仲間やチームに伝えることができる力

#### 各教科における「思考力・判断力・表現力」の育成の現状と課題

##### 現状

- ・ 知識・技能の活用を図る学習活動に積極的に取り組んでいなかったり、課題に応じた適切な学習内容になっていなかったりしている。
- ・ 運動経験の不足や運動に親しむ資質や能力の不足が原因で、知識・技能を活用することができないことがある。
- ・ コミュニケーション能力そのものに課題があり、ペアやグループでの学習活動が困難な場合がある。

##### 課題

生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化の現状を踏まえ、知識・技能の活用を図る学習活動を実践させる過程で、「自己や仲間、チームの課題に応じた運動を継続するための取り組み方」を工夫する能力を育成し、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにすることが課題である。

#### 保健体育部会主題

思考力・判断力・表現力を育み、「学び」を活性化させる学習指導の工夫  
～ 「体育」における言語活動の質的な向上を目指して ～

#### 仮説

適切な言語活動を選択し実践するための学習場面を意図的・計画的に設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し課題を解決する学習活動を重視することで、思考力・判断力・表現力を育成することができる。

#### 具体的方策

- ・ 発達の段階や校種の接続を踏まえ、学習課題を明確にして、具体的な言語活動場면을示した単元計画及び学習指導案を作成する。
- ・ 言語活動を充実させるための「課題に応じた学習カード」等の学習資料を作成する。また、教師の効果的な相互作用について検討し実践する。

#### 検証方法

- ・ 思考力、判断力、表現力等に関する項目を重視した授業アンケートを作成して検証授業の前後に実施し、その結果を比較検討・分析し考察する。
- ・ 単元を通じた学習カードにおける生徒の記述内容の変容について、分析し考察する。



## 2 実践事例

### I 単元名 陸上競技「競走：ハードル走（1学年）」

#### (1) 単元の目標

- ア インターバルではリズムを維持した走りからハードルを低く越せるようにする。
- イ ハードル走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- ウ 自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付けるには、自己観察や他者観察などの方法があることを理解できるようにする。さらに、適切な練習方法を選ぶとともに、仲間に対して技術的な課題や有効な練習方法の選択に関して指摘できるようにする。

#### (2) 単元及び学習活動に即した評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	ハードル走の楽しさや喜びを味わうことができるよう、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたってハードル走を実践したり、ハードル走で考えたことを日常生活に生かすための自己の課題に応じた運動の取組み方を工夫している。	ハードル走の特性に応じた特有の技能を身に付けている。	ハードル走における技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解している。
学習活動に即した具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①運動観察を通して仲間の課題を指摘するなど教え合いながら取り組もうとしている。</li> <li>②運動を行う際、仲間と互いに合意した役割に、責任をもって自主的に取り組もうとしている。</li> <li>③個人やグループの課題解決に向けて話し合いに責任をもって関わろうとしている。</li> <li>④用具の安全確認や運動開始時の体調確認など、健康・安全を確保しようとしている。</li> <li>⑤勝敗や個人の記録を、単に良し悪しだけでなく、学習に取り組んできた過程と関連付けようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付けている。</li> <li>②自己の課題に応じて、適切な練習方法を選んでいる。</li> <li>③仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択に関して指摘したりアドバイスしたりしている。</li> <li>④ハードル走を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①スタートダッシュから1台目のハードルを勢いよく走り越すことができる。</li> <li>②遠くから踏み切り、振り上げ脚をまっすぐに振り上げ、ハードルを低く走り越すことができる。</li> <li>③インターバルでは3～5歩のリズムを最後のハードルまで維持して走ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ハードル走における技術の名称や記録の向上につながる留意すべき特有の動きのポイントについて言ったり書き出したりしている。</li> <li>②ハードル走のパフォーマンスは、体力要素の中でも敏捷性や柔軟性、瞬発力などに強く影響されることから、技術と関連させた補助運動や部分運動を取り入れたり、繰り返し行ったりすることで結果として体力が高まるということについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>③自己や仲間の動き方を分析するために、学習カードや視聴覚教材を活用した運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。</li> </ul>

### (3) 指導と評価の計画

時間	学習のねらい・主な学習活動	評価規準 (評価方法)	具体的な言語活動場面
はじめ	ねらい① ○自己に合ったインターバルを見付け、3～5歩のリズムを最後のハードルまで維持して走る。		
	活動Ⅰ オリエンテーションを通して学習の進め方を知る。 前年度までの学習内容を確認する。 活動Ⅱ 目標タイムの設定 ・目標となる50m走+1秒の記録を測定する。 活動Ⅲ レーンをセッティングし自己に合ったインターバルを見付ける。	関心・意欲・態度①②④ (観察・発言・学習カード)	・学習カードにある文章で書かれたハードル技術から、自己の課題について書き留める。
	ねらい② ○スタートダッシュから1台目のハードルを勢いよく走り越す。		
なか	活動Ⅰ 第1ハードルをスピードに乗って跳べるよう、歩数を合わせる(7歩、8歩、9歩) ・第1ハードルまでにトップスピードに上げ、そのスピードを落とさずに走りきる。 活動Ⅱ ハードリングの基礎的な技術を復習し、課題解決に取り組む。 ・第1ハードルを勢いよく走り越せるようになったら、そのスピードを落とさず2台目、3台目と跳んでいく。	運動の技能① (観察)  思考・判断① (観察)	・うまくいくためのポイントについて気付いたことを書き留める。 ・文章で書かれたハードル技術から自己の課題について書き留める。 ・仲間に対して課題に応じた有効な練習方法について説明する。
	ねらい③ ○速くから踏み切り、振り上げ脚をまっすぐに振り上げ、ハードルを低く走り越す。 ○インターバルでは、3～5歩のリズムを最後のハードルまで維持して走る。		
	活動Ⅰ 視聴覚教材を活用し、実際のフォームをチェックする。グループ内でお互いに見合い、アドバイスをする。 活動Ⅱ 自己の体力に応じて2～3本程度タイムを計測をする。	運動の技能② (観察)  知識・理解①② (発言・学習カード)  思考・判断② (観察)	・うまくいくためのポイントについて気付いたことを書き留める。 ・文章で書かれたハードル技術から自己の課題について書き留める。 ・仲間に対して課題に応じた有効な練習方法について説明する。 ・練習方法を選ぶ際に、話し合いを通して互いの課題や特徴を分析し、その選択の妥当性を検討したり書き留めたりする。 ・視聴覚教材を活用し、自己や仲間の課題を指摘し、改善点や練習方法を説明したり書き留めたりする。
まとめ	活動Ⅲ ハードリングの技術レース ・様々なインターバルのレーンを準備する。インターバルの長さに関わらず最終ハードル(5台目)からゴールまでの距離を10mとする。 ・3～5歩のリズムを最後のハードルまで維持できたか互いに確認し合う。	関心・意欲・態度③ (観察)  思考・判断③ (発言・学習カード)	・うまくいくためのポイントについて気付いたことを書き留める。 ・仲間に対して課題に応じた有効な練習方法について説明する。 ・仲間が技術的課題について指摘・説明する。 ・視聴覚教材を活用し、自己や仲間の課題を指摘し、改善点や練習方法を説明したり書き留めたりする。
	ねらい④ ○スピードを維持した走りからハードルを低く越す。		
7 ・ 8	活動Ⅰ 50mハードル走記録会 ・視聴覚教材を活用し、実際のフォームをチェックする。 活動Ⅱ 学習のまとめ及び総括評価を行う。	運動の技能③ (観察)  関心・意欲・態度⑤ (観察・学習カード)  知識・理解③ (発言・学習カード)  思考・判断④ (学習カード)	・練習方法を選ぶ際に、話し合いを通して互いの課題や特徴を分析し、その選択の妥当性を検討したり書き留めたりする。 ・視聴覚教材を活用し、自己や仲間の課題を指摘し、改善点や練習方法を説明したり書き留めたりする。 ・ハードル走における技術の名称や留意すべき動きのポイントがあることを書き出したりする。 ・今後ハードル走を継続して楽しむための自分なりの関わり方についてまとめたり書き留めたりする。

(4) 単元構造図

		1	2	3	4	5	6	7	8
学習の流れ	オリエンテーション	共通メニュー（準備運動、今日の学習内容の確認、レーンセッティング）							
	目標タイム設定	インターバル走 タイム計測	第一ハードル合わせ タイム計測	視聴覚教材の活用 グループ学習 技術練習 タイム計測			ハードリングの 技術練習	技術練習	記録会①
		共通メニュー（整理運動、振り返り、次回課題等）							
評価規準と評価の方法・機会	運動の技能			① スタートダッシュから1台目のハードルを勢いよく走り越すことができる。 <b>①観察</b>	② 速くから踏み切り、振り上げ脚をまっすぐに振り上げ、ハードルを低く走り越すことができる。 <b>②観察</b>	③ インターバルでは3～5歩のリズムを最後のハードルまで維持して走ることができる。 <b>②観察</b>			③ 記録会 <b>③観察</b>
	関心・意欲・態度	② 運動を行う際、仲間と互いに合意した役割に、責任をもって自主的に取り組もうとしている。 <b>②観察・発言</b>	① 運動観察を通して仲間の課題を指摘するなど教え合いながら取り組もうとしている。 <b>①観察・学習カード</b>		③ 個人やグループの課題解決に向けて話合いに責任をもって関わろうとしている。 <b>③観察</b>	⑤ 勝敗や個人の記録を、単に良し悪しだけでなく、学習に取り組んできた過程と関連付けようとしている。 <b>⑤観察・学習カード</b>		③ 観察 <b>③観察</b>	⑤ 観察・学習カード <b>⑤観察・学習カード</b>
	知識・理解	④ 用具の安全確認や運動開始時の体調確認など、健康・安全を確保しようとしている。 <b>④観察</b>			① ハードル走における技術の名称や記録の向上につながる留意すべき特有の動きのポイントについて言ったり書き出したりしている。 <b>①発言・学習カード</b>	② ハードル走のフォームは、体力要素の中でも敏捷性や柔軟性、脚力などに強く影響されることから、技術と関連させた補助運動や部分運動を取り入れたリ、繰り返し行ったりすることで効果として体力が高まることについて、言ったり書き出したりしている。 <b>②発言・学習カード</b>			③ 自己や仲間の動き方を分析するために、学習カードや視聴覚教材を活用した運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 <b>③発言・学習カード</b>
	思考・判断			① 自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付けている。 <b>①観察</b>	② 自己の課題に応じて、適切な練習方法を選んでいる。 <b>②観察</b>		③ 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択に関して指摘したりアドバイスしたりしている。 <b>③発言・学習カード</b>		④ ハードル走を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。 <b>④学習カード</b>

※表の見方：黒地白抜き文字は、同番号の各評価規準に基づき評価する方法・機会を示している。

(5) 本時の展開 (全8時間中の4時間目)

ア 本時のねらい

- ・遠くから踏み切り、振り上げ脚をまっすぐ振り上げ、ハードルを低く走り越すことができるようにする。
- ・インターバルでは、3～5歩のリズムを最後のハードルまで維持して走ることができるようになるようにする。

イ 本時の展開

過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整理、挨拶、出欠確認及び健康状態の確認。</li> <li>・ 本時のねらいや学習内容を理解する。</li> <li>・ 準備運動を行う。 体育委員を中心に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の出欠状況、健康状態を確認する。</li> <li>・ これまでの学習を振り返りながら、本時のねらい「自分や仲間の課題を見つけたら、教えたりすること」「ハードルを低く走り越すこと」「インターバルを3～5歩のリズムで最後のハードルまで維持して走ること」を伝える。</li> <li>・ 体育委員の指示にしたがって行うよう指示する。</li> </ul>	
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハードル準備</li> <li>○ グループごとに前時の復習・抜き脚、振り上げ脚等のポイントを部分的に練習する。</li> <li>・ ハードルを低く走り越すために踏み切り、着地についてポイントをつかむ。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(低い場合の1歩)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(高い場合の1歩)</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>努力を要する生徒への手立て</b>  <b>【言語活動場面】</b>          ・課題解決のための資料を解説しながら視聴覚教材を確認することで、仲間に対する課題の指摘や説明をしやすくする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【言語活動場面】 うまくいくためのポイントについて書き留める。(要約・記録)          【言語活動場面】 仲間の技術的な課題について指摘・説明する。(要約・説明)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ タイム計測                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己の体力に応じて2～3本計測する。</li> <li>・ 視聴覚教材を活用し、実際のフォームをチェックする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループで協力して行わせる。</li> <li>・ 抜き脚の際、「膝を正確に前方高く引き出しているか」「膝が横に移動しないか」お互いに確認させる。</li> <li>・ 「振り上げ脚は、折った膝でリードしてから振り出し(突き出し)で越えているか」「振り上げ脚と腕との反対動作に注意できているか」確認させる。</li> <li>・ 踏み切りの遠い・近いでハードリングの速さに関係があることを理解させ、行わせる。</li> <li>・ ハードルの手前、1～1.5mに踏み切りラインを引きその位置から踏み切らせる。</li> <li>・ 踏み切り点からハードル：ハードルから着地点＝6：4になると、最もハードリングにロスがないことに気付かせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>努力を要する生徒への手立て</b>  <b>【言語活動場面】</b>          ・課題解決のための資料を解説しながら視聴覚教材を確認することで、仲間に対する課題の指摘や説明をしやすくする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【言語活動場面】 視聴覚教材を活用し、自己や仲間の課題を指摘し、改善したり書き留めたりする。(説明・記録)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～5歩のリズムで最後のハードルまで維持し走らせることを意識させる。</li> </ul>	<p>エ①ハードル走における技術の名称や記録の向上につながる、留意すべきポイントがあることを書き出したり、言ったりしている。(発言・学習カード)</p> <p>イ②自己の課題に応じて、適切な練習方法を選んでいる。(観察)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>努力を要する生徒への手立て</b>          ・高さに対する恐怖心のある生徒に対しては、ミニハードルの活用やハードルを倒した形で使用して、3～5歩のリズムを維持させて走らせる。</p> </div>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハードル片付け、整理運動を行う。視聴覚教材を活用し、実際のフォームをチェックする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【言語活動場面】 視聴覚教材を活用し、自己や仲間の課題を指摘し、改善したり書き留めたりする。(説明・記録)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集合させ整理運動を行わせる。</li> <li>・ 本時のねらいを振り返り、生徒の意見を聞き、まとめをする。</li> <li>・ 次回の課題などを説明する。</li> </ul>	

(6) 学習カード

ハードル走学習カード  
1年組( )氏名

◆50mフラット走 秒		◆目標タイム:フラット走 秒+1秒= 秒		
授業時数	① 月 日	② 月 日	③ 月 日	④ 月 日
今日の最高タイム	秒	秒	秒	秒
インターバル	m	m	m	m
踏んだ本数	本	本	本	本
注意したこと				
できた技術	①②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭ ⑮⑯⑰	①②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭ ⑮⑯⑰	①②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭ ⑮⑯⑰	①②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭ ⑮⑯⑰
友人からのアドバイス				
次時の課題・感想等				

(表面)

# ハードル走技能チェック

①ハードル間を一定の歩数で走ることができる。

②第一ハードルまでの間に加速してから、ハードルを越すことができる。

③高さや幅のある障害を一定のリズムで越えながら走り続けることができる。

④振り上げ脚を伸ばして、前方に振り上げることができる。

⑤振り上げ脚を振り上げるときに上体を前傾できる。

⑥踏み切った脚を踵に閉じて抜くことができる。

⑦速くから踏み切ることができる。

⑧ハードルを低くまたは背越すことができる。

⑨振り上げ脚と逆の脚を、振り上げ脚のつま先の方へ突き出すことができる。

⑩バランスが崩れないようにハードルを越すことができる。

⑪一定のリズムでインターバルを走り、タイムが向上した。

⑫第一歩目は、測りに引きつけた膝を前方へ強く踏み出すことができる。

⑬踏み切った脚を抜いた直後、膝を測りに引きつけることができる。

⑭振り上げ脚を早く振り下ろすことができる。

⑮着地の際、前方へ出した脚の足を早く後方へ引きつけることができる。

⑯ハードルを越えるときタイムロスせずに走り続けることができる。

⑰5台のハードルを低くバランスを崩さないように跳え、フラット走+1.0秒で50mハードル走を走り続けることができる。

(裏面)

**ハードルタイム記録**

ハードリングタイム	10	9	8	7	6
1.0秒以内	1.1秒~1.3秒	1.4秒~1.6秒	1.7秒~1.9秒	2.0秒~2.2秒	2.3秒以上
5	4	3	2	1	
2.3秒~2.5秒	2.6秒~2.8秒	2.9秒~3.1秒	3.2秒~3.4秒	3.5秒以上	

Ⅱ 単元名 球技「ネット型：バレーボール（1学年）」

(1) 単元の目標

- ア ネット型のゲームの特性を理解し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、役割に応じたボール操作や作戦に応じた技能で仲間と連携した動きを行い、相手側コートの空いた場所をめぐる攻防を展開するゲームができるようにする。
- イ バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の役割を理解し、その責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。
- ウ 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

(2) 単元及び学習活動に即した評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	バレーボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたってバレーボールを豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	バレーボールの特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	バレーボールにおける技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。
学習活動に即した具体的な評価規準	①バレーボールに自主的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守るだけでなく、学習場面で求められているフェアな行動を守ろうとしている。 ③互いに練習相手になったり、仲間に助言したりして取り組もうとしている。 ④自己の役割を理解し、その役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。 ⑤チームの課題解決に向け、話し合いに積極的に参加しようとしている。 ⑥自己やチームの健康・安全を確保しようとしている。	①自己やチームの課題を見付けている。 ②自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ③仲間やチームに対して技術的な課題や有効な練習方法を指摘している。 ④健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 ⑤バレーボールを継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。	①移動しながら、意図したところへパスやレシーブをすることができる。 ②トスされたボールを安定した高さで、力強くスパイクすることができる。 ③サーブでボールの中心を打ち、相手コートにのねらったところに打つことができる。 ④ネット付近のボールに対して、ブロックしたり、打ち返したりすることができる。 ⑤味方の動きに合わせて、コート上の空いている場所をカバーすることができる。 ⑥ポジションの役割に応じた守備や攻撃のフォーメーションの動きができる。	①バレーボールの技術や戦術、作戦の名称について言ったり書き出したりしている。 ②ゲーム中の攻防のポイントやボール操作とボールを持たないときの動きについて、具体例を挙げている。 ③試合の運営の仕方について、具体例を挙げている。

### (3) 指導と評価の計画

時間	学習のねらい・主な学習活動	評価規準 (評価方法)	具体的な言語活動場面
はじめ	ねらい① ○前年度までの学習を確認し、単元の見直しをもつ。		
	活動Ⅰ オリエンテーションを通して、学習の進め方を知る。前年度までの学習内容を確認する。 活動Ⅱ 基本的なボール操作と、ボールを持たないときの動きについて、復習する。 【ボール操作】・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス 【ボールを持たないときの動き】・ラリーゲーム ・簡易ゲーム	関心・意欲・態度① (観察)  関心・意欲・態度⑥ (観察)  思考・判断① (学習カード)	・技能チェックシートからポイントを読み取り、自己の課題について学習カードに書き留める。
なか	ねらい② ○ポジションの役割に応じたボール操作をし、味方や相手側コートのおねらった場所にボールをつないだり、打ち返したりする。 ○ボールを持たないときの動きを身に付ける。		
	活動Ⅰ 役割に応じたボール操作を身に付ける。 ・安定したボール操作を身に付けるためのポイントを理解し、捨ったりつないだり打ち返したりしながら、仲間やチームで協力し、課題解決を図る。 【ボール操作】・対人練習(レシーブ・パス) 【ボールを持たないときの動き】・スリーメン(カバーの動き、セッターあり、なし等)	関心・意欲・態度④ (観察)  知識・理解① (観察・発言)	・うまくいくためのポイントについて書き留める。 ・ラリー中など、ボールを持たないときの動きのポイントについて、仲間に説明したり、書き留めたりする。 ・仲間やチームの技術的な課題について指摘し、説明する。
	活動Ⅱ 安定してねらった場所に運べるボール操作を身に付ける。 ・ポジションに応じたボール操作を身に付けるためのポイントを理解し、互いに助け合い、教え合いながら学習に取り組む。 【ボール操作】・スパイク(セッター投げ上げAクイック、セッター投げ上げスパイク、トスによるスパイク) ・ブロック(形作り、ブロックジャンプ) 【ボールを持たないときの動き】 ・チャンスボールからのタスクゲーム	運動の技能① (観察)  運動の技能⑤ (観察)  関心・意欲・態度③ (観察・学習カード)	・うまくいくためのポイントについて書き留める。 ・ラリー中など、ボールを持たないときの動きのポイントについて、仲間に説明したり、書き留めたりする。 ・仲間やチームの技術的な課題について指摘し、説明する。
	【ボール操作】・サーブ ・レシーブ 【ボールを持たないときの動き】・サーブレシーブからの攻撃(セッターが上がった場合は攻撃のための移動、セッターに上がらなかった場合はカバーや2段トスのための移動)	運動の技能⑤ (観察)  思考・判断③ (学習カード)	・うまくいくためのポイントについて書き留める。 ・ラリー中など、ボールを持たないときの動きのポイントについて、仲間に説明したり、書き留めたりする。 ・仲間やチームの技術的な課題について指摘し、説明する。
	活動Ⅲ コート上の空いている場所をカバーする動きや基本的なフォーメーションに応じた動きを身に付ける。 ・活動ⅠⅡを応用しながら、ボールを持たない動きのポイントを理解し、課題を見付け、解決に向け、チームの話し合い等に責任をもって関わろうとする。フォーメーション練習(サーブ、レシーブ、アタック、レシーブ)	運動の技能③ (観察・学習カード)  知識・理解② (学習カード)	・仲間やチームの技術的な課題について指摘し、説明する。
	・タスクゲームから自己や相手を分析し作戦を立てる。	運動の技能② (観察・学習カード)  運動の技能④ (観察)	・作戦を選ぶ際に、話し合いを通して自己のチーム、相手チームの特徴を分析し、その選択の妥当性を検討したり、書き留めたりする。
	ねらい③ ○空いた場所をめぐる攻防を中心に自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を立てて、ゲームを楽しむ。 ○試合の行い方、ルール、審判や運営の仕方を理解する。		
まとめ	活動Ⅰ 自己及びチームの課題に対する練習と試しのゲームを行う。 ・チームの課題解決を図るための練習を行う。	関心・意欲・態度⑥ (観察)  思考・判断④ (学習カード)	・仲間に対して、課題に応じた有効な練習方法について、説明する。 ・作戦を選ぶ際に、話し合いを通して自己のチーム、相手チームの特徴を分析し、その選択の妥当性を検討したり、書き留めたりする。
	活動Ⅱ チーム対抗戦を行う。フェアプレイを大切に、健康安全に留意する。 ・審判や運営の仕方を学習しゲームを楽しむ。 活動Ⅲ 学習のまとめを行う。総括評価を行う。	運動の技能⑥ (観察)  関心・意欲・態度② (観察)  知識・理解③ (観察・発言)  思考・判断②⑥ (学習カード)	・作戦を選ぶ際に、話し合いを通して自己のチーム、相手チームの特徴を分析し、その選択の妥当性を検討したり、書き留めたりする。 ・今後、バレーボールを継続して楽しむための自分なりの関わり方について、まとめたり、書き留めたりする。

(4) 単元構造図

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
		共通メニュー（準備運動、今日の学習内容の確認）										
学習の流れ	オリエンテーション											
	前年度までの復習		対人練習	スパイク・ブロック	サーブ・レシーブ	課題練習	グループ別練習					
	簡易ゲーム		スリーメン	チャンスボールからのタスクゲーム	レシーブからの攻撃	フォーメーション練習	タスクゲーム・分析	ルール確認	審判法確認	班対抗戦		
		共通メニュー（整理運動、振り返り、次回課題等）										
評価規準と評価の方法・機会	運動の技能			① 移動しながら、意図したところへパスやレシーブをすることができる。	② トスされたボールを安定した高さで、力強くスパイクすることができる。	③ サーブでボールの中心を打ち、相手コートの中へ打つことができる。					⑥ ポジションの役割に応じた守備や攻撃のフォーメーションの動きができる。	
	① 観察			⑤ 味方の動きに合わせて、コート上の空いている場所をカバーすることができる。	④ ネット付近のボールに対して、ブロックしたり、打ち返したりすることができる。			③ 観察・学習カード	② 観察・学習カード		⑥ 観察	
	④ 観察											
	⑤ 観察											
関心・意欲・態度		① バレーボールに自主的に取り組もうとしている。	④ 自己の役割を理解し、その役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。	③ 互いに練習相手になったり、仲間に助言したりして取り組もうとしている。			⑤ チームの課題解決に向け、話合いに積極的に参加しようとしている。		② ルールやマナーを守るだけでなく、学習場面で求められているフェアな行動を守ろうとしている。			
① 観察												
⑥ 観察												
⑥ 観察												
⑤ 観察												
② 観察												
知識・理解				① バレーボールの技術、戦術の名称について言ったり書き出したりしている。			② ゲーム中の攻防のポイントやボール操作とボールを持たないときの動きについて、具体例を挙げている。			③ 試合の運営の仕方について、具体例を挙げている。		
① 観察・発言												
② 学習カード												
③ 観察・発言												
思考・判断		① 自己やチームの課題を見付けている。				③ 仲間やチームに対して技術的な課題や有効な練習方法を指摘している。			④ 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。	② 自己や相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。	⑤ バレーボールを継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。	
① 学習カード												
③ 学習カード												
④ 学習カード												
② 学習カード												
⑤ 学習カード												

※表の見方：黒地白抜き文字は、同番号の各評価規準に基づき評価する方法・機会を示している。



(5) 本時の展開 (全 10 時間中の 4 時間目)

ア 本時のねらい

- ・スパイクやブロックなど、技能のポイントを確認しながら練習し、新たに発見した自己や仲間の課題について、教えたり、説明したりすることができるようにする。
- ・声を掛け合いながら、連携した一連の流れを意識したプレイや、味方の動きに合わせて空いている場所をカバーする動きができようにする。

イ 本時の展開

過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整列、挨拶、出欠確認及び健康状態の確認</li> <li>・本時のねらいや学習内容を理解する。</li> <li>・準備運動を行う。 体育委員を中心に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の出欠状況、健康状態を確認する。</li> <li>・これまでの学習を振り返りながら、本時のねらい「自己や仲間の課題を見付けたり、教えたりすること」「ラリー中、ボールを持たないときの動きを意識して行うこと」を伝える。</li> <li>・体育委員の指示にしたがって行うよう指示する。</li> </ul>	
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボール慣れ</li> <li>・キャッチボール</li> <li>○対人による基本的な技能の復習</li> <li>・基本姿勢</li> <li>・オーバーハンドパス</li> <li>・アンダーハンドパス</li> <li>・スナップ打ち</li> <li>・トスからスパイク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール慣れを行いながら、パスの基本とレシーブの基本を確認させる。</li> <li>・スナップ打ちでは、ボールを斜め前に上げ、親指と小指に力を入れ、手首のスナップを使ってたくことを伝える。</li> <li>・交互にレシーブ・トス・スパイクのリズムで対人練習が続けられるよう伝える。</li> </ul>	<p>ウ①移動しながら、意図したところへパスやレシーブをすることができる。(観察)</p> <p>ア③互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、取り組みようとしている。(観察・学習カード)</p>
		<p>【言語活動場面】うまくいくためのポイントについて書き留める(要約・記録) 【言語活動場面】仲間の技術的な課題について指摘・説明する。(要約・説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スパイク・ブロック練習</li> <li>・スパイク</li> <li>・ブロック</li> <li>それぞれのネットの前に並び、周りに注意しながら、練習する。</li> </ul> <p>○チャンスボールからのタスクゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各コートに4名ずつ入り、相手コートにボールを投げ入れてから攻防を行う。</li> <li>・セッターは固定し、レシーブに入る場合と、レシーブに入らない場合の動きの判断を経験する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スパイクは、高くジャンプするステップ、最高点でボールを捉えるタイミング、力の伝わる打点が重要なことを伝えポイントごとに指導する。</li> <li>・ブロックは、手を前に出し、相手にタイミングを合わせて予測して飛ぶことが重要であることを伝えポイントごとに指導する。</li> </ul> <p>「努力を要する生徒への手立て」 【言語活動場面】 「課題解決のためのポイントを絞りこむことで仲間に対して課題を指摘しやすくする。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール操作だけでなく、ボールを持たない(カバーする)ときの動きを意識して行えるよう指導する。</li> <li>・プレイごとに仲間が集まり、励ましあったり、修正したりすることを意識させる。</li> <li>・互いに指示の声をかけることが重要であることを伝える。</li> </ul>	<p>ウ②味方の動きに合わせて、コート上の空いている場所をカバーすることができる。(観察)</p> <p>努力を要する生徒への手立て ・スパイクのポイントを同時に行うのが難しい生徒には、個別に練習させ、徐々に合わせていく。</p>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理運動を行う。</li> <li>・本時のねらいを見ながら、自分の活動を振り返る。</li> <li>・学習カードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合させ整理運動を行わせる。</li> <li>・本時のねらいを振り返り、生徒の意見を聞きながらまとめをする。</li> <li>・次回の課題などを説明する。</li> </ul>	

(5) 学習カード

バレーボール 学習カード

年 組 番 氏 名

時	目的の場所に返せる・打てる？(4:よくできた……1:できなかつた)					
	アンダーハンドパス	オーバーハンドパス	スパイク	ブロック	サーブ	
1・2	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	
	ボールを持たないときの動きができる？(4:よくできた……1:できなかつた)					
	準備姿勢	落下点に動く	定位置に戻る	アタック時の助走	ラリー中のカバー	
	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	
	①あなたの技術的な課題(身に付けたい、上達したいこと)は？(技能チェックシートを参考に記入)					

①個人学習カード (表面)

時	②課題解決のためのポイント	アドバイスをした人	③アドバイスされたこと
3			
4			
5			

＜記入のポイント＞  
 ①あなたの技術的な課題欄には自分の技術の課題をチェックシート(別紙)を参考に記入する。  
 例) アンダーハンドパスで腕を振ってレシーブしてしまう。スパイクを打つとアウトになってしまう…  
 ②課題解決のポイント欄には練習で気付いた、身に付いた運動のポイントを記入する。  
 例) アンダーハンドパスを打つ瞬間、組んだ手を下に向け、スパイクは足を伸ばして、ボールの頭を打つ…  
 ③アドバイスされたこと欄には練習や試合で仲間からアドバイスを受けたことを記入する。

＜アドバイスのポイント＞  
 班長の技能向上はチーム力のアップにつながる。適切にアドバイスをしましょう。  
 (分らない)「特になし」はダメ!!

- 1.技能チェックシートを参考に短い言葉で
- 2.話すときは冷静に
- 3.話ばかりと最後まで聞く
- 4.お互いが嫌な気持ちにならないように
- 5.どのようなアドバイスでも大事に受け止める

＜授業の振り返り＞(4:よくできた……1:できなかつた)

時	積極性・自主性	思考性	アドバイス	ボール操作の技能	ボールを持たない動き
2	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
4	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
6	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
8	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1

②個人学習カード (裏面)

技能チェックシート

★ 練習やゲームを通して、自分やチームの技能を振り返ってみよう！

アンダーハンドパス (ウツ)	セッターがトスしやすけりボールを送ろう レシーブの際、肘が曲がっていますか セッターの方向に向けてレシーブしていますか 腕を振らずにレシーブしていますか 膝を曲げてレシーブしていますか ボールが低かったですか、高かったですか セッターがトスしやすけりボールを送ろう、バックトスや高球に練習してみよう ボールから目を離していませんか 指と手を顔の上に向けていますか 目的の場所に返せていますか 指を伸ばしてパスしていますか 指を曲げてパスしていますか ボールが低かったですか、高かったですか ボールがネットに近かったですか遠かったですか 速攻や短距離攻撃に練習してみよう 助走ができていますか (2歩や3歩助走) 足幅を肩幅に開き、踏み込んでいますか 両手を後ろに振り上げ、踏み込んでいますか 踏み込んだ姿勢からボールめがけてジャンプしていますか 降り上げた時、両手が頭の後ろまできていますか 肘を伸ばしてボールを打っていますか ボールの上の部分で打っていますか 上にジャンプできていますか (前に跳んだら、体が傾いていませんか) 目的の方向にスウィングできていますか
スパイク	相手の攻撃に動いて移動したり、2・3人でブロックをしてみよう 肩幅に足を開いて、膝を曲げて構えることができますか 手のひらを少し開いて、肘を伸ばしてジャンプすることができますか 腕を前に振らずに、ブロックすることができますか
ブロック	コートの手前や相手がいらないところをねらって打ってみよう 足を一歩前へ踏み出しながら腕を後ろに大きく振り上げていますか トスを高く上げていますか 前方に歩くように重心移動をして打っていますか 手のひら全体でボールを捉えていますか 目的の方向にスウィングしていますか
サーブ	ポジションの位置に動いてフォアームの動きをしてみよう 中腰の姿勢でかまえていますか ボールの来る方向に体を向けていますか ボールの落下点に動いていますか サーブやレシーブの際に、定位置に戻れていますか アタックの際に、一度ネットから離れて動走をとれていますか ラリーの中で、コート上の空いている場所をカバーできていますか

③チーム学習カード 例1

フォーメーションを考えよう!

<記入の仕方>

- それぞれの状況に合わせた、味方側のフォーメーションを作成する
  - セッター役の人には分かりやすくするために□で囲む
  - 矢印や言葉を書き加えて、分かりやすくしてよい
- ※ ぐちゃぐちゃしないように線を付けて

【定位置】 味方 相手	【サーブレシーブ】 味方 相手	【チャンスボール】 味方 相手
【レフト攻撃に対して】 (ブロック2枚) 味方 相手	【センター攻撃に対して】 (ブロック2枚) 味方 相手	【ライト攻撃に対して】 (ブロック2枚) 味方 相手
【レフト攻撃に対して】 (ブロック1枚) 味方 相手	【センター攻撃に対して】 (ブロック1枚) 味方 相手	【ライト攻撃に対して】 (ブロック1枚) 味方 相手

⑤チーム学習カード 例3

チームの課題と課題を解決する練習

◇今日の学習の課題 (めあて)

◇課題を解決するための練習方法

◇ゲームの作戦

◇ゲームの最初のポジション

◇ゲーム対戦結果とゲーム分析

対戦相手	試合結果	対戦相手	試合結果
( ) 対 ( ) 対 ( ) (勝・負)	( ) 対 ( ) 対 ( ) (勝・負)	( ) 対 ( ) 対 ( ) (勝・負)	( ) 対 ( ) 対 ( ) (勝・負)
勝因 (なぜ勝ったのだろうか)・敗因 (なぜ負けてしまったのだろうか)			
①		②	

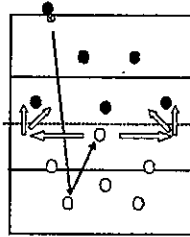
◇今日の課題の解決策

十分達成	達成	やや達成	やや不達成	不達成
5	4	3	2	1

理由

④チーム学習カード 例2

タスクゲームからの分析



<方法>

- 後衛をねらって打つサーブからスタート
- レシーブでセッター (センター) にパス
- セッターはライトかレフトにトス
- トスされたボールをクロスかストレートのコースにスパイク
- 守備側はブロックをして、アタックレシーブフォーメーションで攻撃に対応する
- レシーブはセッターにつなげる
- 12本で攻撃と守備を交代

攻撃	コース	攻撃回数	成功回数	成功率
レフト攻撃	クロス			%
	ストレート			%
ライト攻撃	クロス			%
	ストレート			%

◇結果から分かったこと

◇チームの作戦

⑥チーム学習カード 例4

バレーボール戦力分析カード

★今日対戦するチームはどこか!

班

★対戦相手はどんなタイプのチームか?  
(番号に○をする)

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| 1. スパイク力がある。   | 8. チームワークがある。       |
| 2. ブロックが強い。    | 9. 元気がありまとまっている。    |
| 3. サーブが強い。     | 10. 強いがまとまりがない。     |
| 4. レシーブが上手。    | 11. 守りと攻撃が平均してよい。   |
| 5. 長身者がいる。     | 12. 強いのか弱いのか分からない。  |
| 6. トスをあげる人が上手。 | 13. 自分のチームより格段に強い。  |
| 7. パスの連携が上手。   | 14. 点を取るがミスもたくさんある。 |

★今日はどんな作戦でゲームをするか。  
(番号に○をつける)

- |                |                      |
|----------------|----------------------|
| 1. 守りを重視する。    | 8. 弱いポジションを攻める。      |
| 2. ブロックを強化する。  | 9. 先に攻める。            |
| 3. レシーブを強化する。  | 10. 丁寧にボールを返す。       |
| 4. フェイントを用いる。  | 11. コートの隅をねらう。       |
| 5. ロングパスで攻める。  | 12. やさしいボールを返さない。    |
| 6. パスアタックを用いる。 | 13. 最後までねばりをみせる。     |
| 7. サーブでくすす。    | 14. 相手にチャンスボールを与えない。 |

## VI 研究の成果

### 1 発達の段階や校種の接続を踏まえた学習課題の明確化

#### (1) 生徒の学習状況や経験の把握

高等学校入学年次の生徒は、出身中学校が違うため科目「体育」における学習経験に差が見られる。本研究では、中学校との接続を踏まえ、単元の最初に既習の学習内容を振り返る活動を行い、学習状況や経験を把握した。

その結果、生徒は基礎的・基本的な知識や技能、態度を振り返りながら、それらを活用して学習活動に取り組むことができた。

#### (2) 指導と評価の計画の工夫と単元構造図の作成

中学校との接続や生徒の学習状況・経験を踏まえながら、中学校と高等学校の「解説」の「例示」を参考に、指導と評価の計画を作成した。また、「学習の流れ」、「評価規準と評価の方法・機会」を1枚のシートにまとめた単元構造図を作成し、指導と評価を一体化させた学習指導が展開できるようにした。

その結果、学習の流れを損なわずに指導と評価を計画的に行うことができ、また、指導内容及び評価方法・機会について視覚的に捉えることで、より効果的・効率的な評価を行うことにつながり学習評価の妥当性と信頼性の向上を図ることができた。

さらに、授業において生徒に単元構造図を示すことで、生徒自身にも学習の見通しをもたせ、課題解決に向けて意欲的に取り組ませることができた。

### 2 言語活動の充実の工夫

#### (1) 指導と評価の計画及び学習指導案

指導と評価の計画や学習指導案に言語活動場面を明示し、意図的・計画的に取り組ませることで、学習の勢いを損なわずに、適切な言語活動を行うことができた。

学習指導の工夫として、視聴覚教材を活用し、自己や仲間の運動を観察し修正したり、アドバイスしたりするなど、知識を実践的に活用する自主的なグループ活動に取り組ませた。その結果、生徒が相互に関わり、相手に応じたアドバイスや声かけを工夫するなど、コミュニケーション能力を育成することができた。また、自主的なグループ活動は、自己の責任を果たそうとし、話し合いに貢献しようとする態度の育成にもつながり、「学び」が活性化された。

#### (2) 学習カード

学習カードの作成に当たっては、運動のポイントを言語的かつ視覚的に理解できるように作成するとともに、仲間からのアドバイスも記述できるようにした。その結果、生徒は自己や仲間、チームの課題や課題解決の方法について、視覚的なイメージを言語で捉え、言葉や文章、身体等で表現することとなり、より自主的な課題解決に向けての取組となった。

また、課題に応じて学習カードを活用することで、コミュニケーションや知的活動を充実させることができた。

#### (3) 教師と生徒の相互作用

教師の相互作用行動には、発問やフィードバック、励ましなどがあるが、特に、生徒の思考・判断・表現を深めるような相互作用行動を実践するようにした。具体的には、グループでの活動が停滞したときには、ヒントを与えたり、教師の発問から意見を引き出しグループやクラス

全体で考えさせたり、説明させたりした。学習カードの記述内容に対しては、助言・コメントを行い、学習内容について具体的にフィードバックさせ、思考の方向性を修正した。その結果、学習課題を明確にし、課題解決に向けたグループでの組織的な取組を行わせることができた。

教師の発問は、生徒の思考・判断を促すだけでなく、運動への関心・意欲・態度の向上にもつながり、「学び」が活性化された。

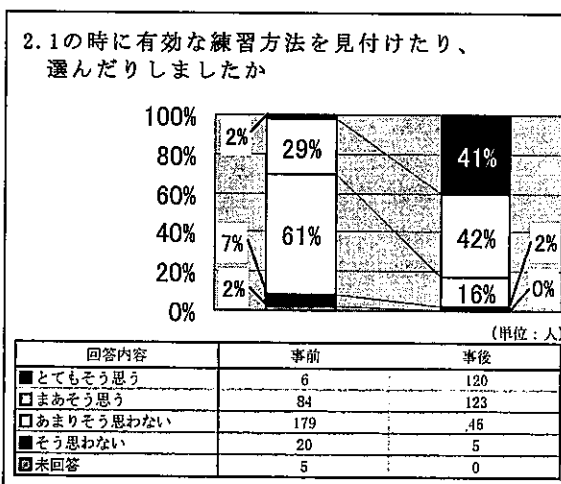
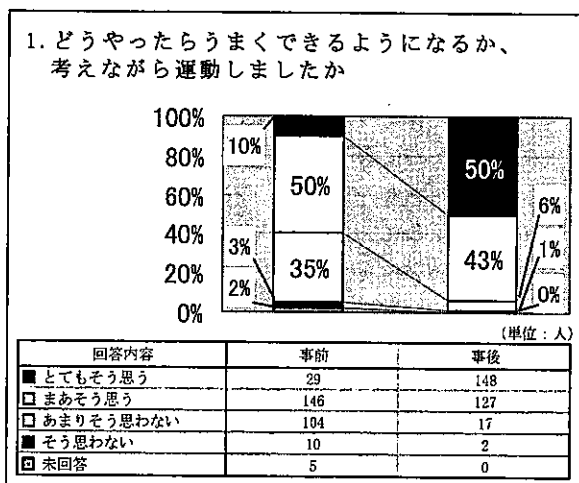
### 3 1時間目終了時及び単元終了時の授業アンケートから明らかになった研究の成果

本研究では、陸上競技「ハードル走」3校（生徒数157人）、球技「バレーボール」3校（生徒数137人）、計6校（全生徒数294人）で検証授業を実施した。1時間目終了時（以下、「事前」とする）と単元終了時（以下、「事後」とする）に同じ内容のアンケートを実施し、比較・検討を行った。

#### (1) 体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断・表現

質問項目1「どうやったらうまくできるようになるか、考えながら運動しましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が60%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が93%となった。

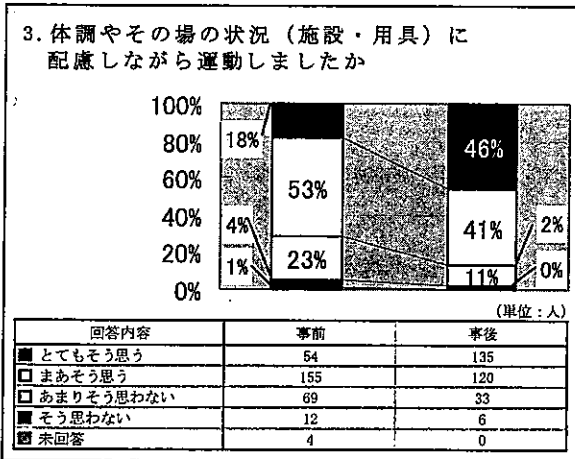
質問項目2「1の時に有効な練習方法を見付けたり、選んだりしましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が31%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が83%となった。



事後アンケートにおいて、質問項目1で約9割の生徒が「考えながら運動した。」と回答し、質問項目2で約8割の生徒が「練習方法を見付けたり選んだりした。」と回答しており、思考・判断・表現を行いながら運動をしたと言える。事後アンケートの自由記述欄にも、「体も疲れたけど、頭が疲れた。考えて運動をした。」「専門用語を使ってアドバイスをし、充実した活動だった。」という感想が書かれているものがあり、体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断・表現がされていたと推察できる。

#### (2) 体力や健康・安全に関する思考・判断・表現

質問項目3「体調やその場の状況（施設・用具）に配慮しながら運動しましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が71%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が87%となった。

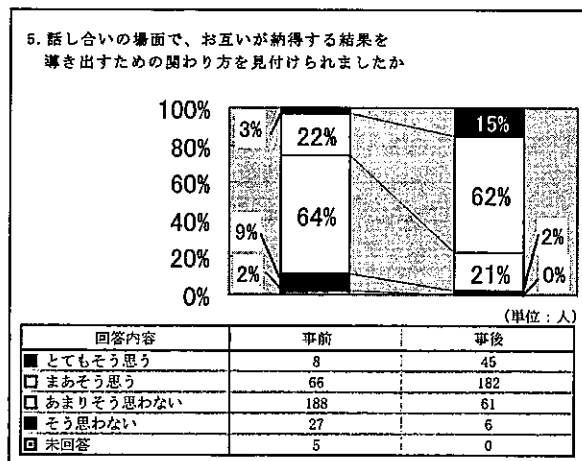
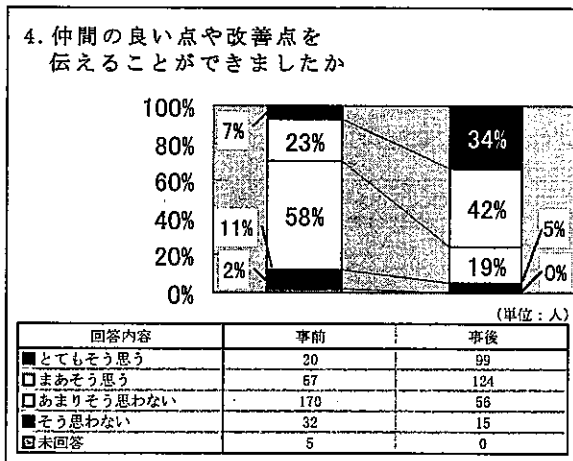


質問項目3の事後アンケートにおける増加率は低いものの、8割以上の生徒が体調やその場の状況に配慮して運動をしたと感じている。授業中の様子からも、使用している用具について安全に運動できるように場所を移動したり、適切に設置したりするなど、安全の確保を考えて取り組む生徒の様子が見られ、体力や健康・安全に関する思考・判断・表現がされたと推察できる。

### (3) 運動実践につながる態度に関する思考・判断・表現

質問項目4「仲間の良い点や改善点を伝えることができましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が30%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が76%となった。

質問項目5「話し合いの場面で、お互いが納得する結果を導き出すための関わり方を見付けられましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が25%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が77%となった。

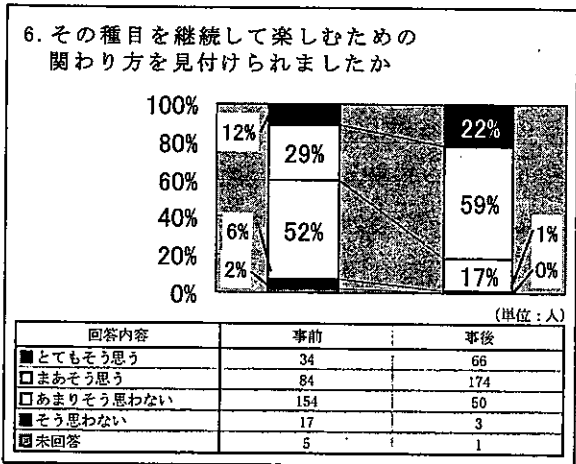


質問項目4、5ともに事後アンケートにおいて、約8割の生徒が仲間の良い点や改善点を伝え、話し合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付けられたと感じている。

授業中の様子からも、積極的な教え合いがあり、見学の生徒も自主的にビデオ撮影を行うなど、運動実践につながる態度に関する思考・判断・表現がされたと推察できる。

### (4) 生涯スポーツの設計に関する思考・判断・表現

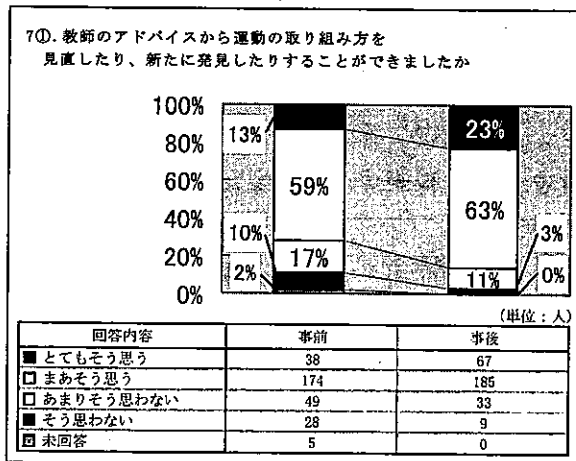
質問項目6「その種目を継続して楽しむための関わり方を見付けられましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が41%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が81%となった。



質問項目6の事後アンケートにおいて、8割の生徒が継続して楽しむための関わり方を見付けることができたと言える。事後アンケートの自由記述欄にも、「授業が楽しかった。また、やりたい。」「種目選択の授業でまた行いたい。」など満足感や達成感が感じられた意見もあり、生涯スポーツの設計に関する思考・判断・表現がされたと推察できる。

(5) 習得した知識・技能を活用する活動での教師の相互作用行動の有効性

質問項目7①「教師のアドバイスから運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が72%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が86%となった。

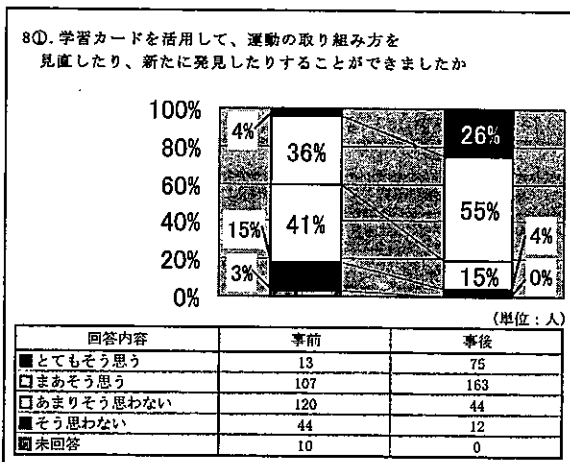


質問項目7①の事後アンケートにおける増加率は低いものの、8割以上の生徒が教師の相互作用行動によって、習得した知識・技能を活用する活動が活性化されたと感じている。

質問項目7②の事後アンケートにおける具体例の記述欄にも「先生のアドバイスから、技能のポイントやチームの連携の仕方をチーム全員で確認し、練習や試合をすることができた。」という記述があり、教師の相互作用行動が有効に活用されたと推察できる。

(6) 習得した知識・技能を活用する活動での学習カードの有効性

質問項目8①「学習カードを活用して、運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が40%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が81%となった。

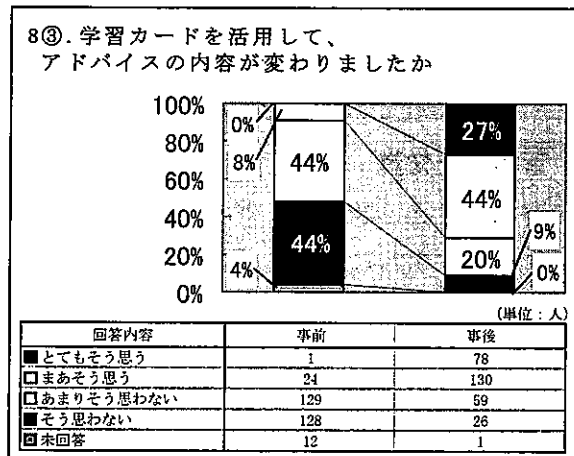
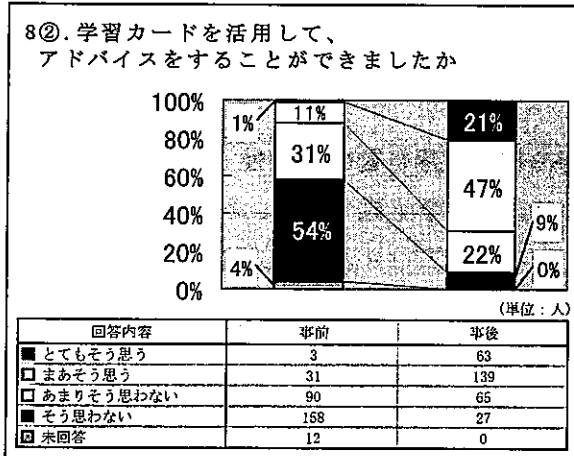


質問項目8①の事後アンケートにおいて、8割以上の生徒が学習カードを活用して、運動の取り組み方を見直したり、新たに発見したりすることができたと感じている。授業の様子からも、学習カードに記載した内容やアドバイスされた内容を見直して、学習課題の把握と振り返りをするなど、学習カードが有効に活用されたと推察できる。

(7) 学習カードの活用による言語活動の充実

質問項目 8②「学習カードを活用して、アドバイスをすることができましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が12%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が68%となった。

質問項目 8③「学習カードを活用して、アドバイスの内容が変わりましたか」について、事前アンケートにおいて「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が8%であったが、事後アンケートでは「4. とてもそう思う」「3. まあそう思う」が71%となった。



質問項目 8②において、7割近くの生徒が学習カードを活用して、教え合いや学び合いの活動を行えたと感じている。授業の様子からも、学習カードの技能チェックシートを活用して、アドバイスをしている生徒の様子が見られた。

質問項目 8③において、7割以上の生徒が、学習カードを活用した言語活動の内容に改善が見られたと感じている。学習カードの記述内容もより具体的・客観的に変容している様子が見て取れる。以下に、学習カードの変容の一例を掲載する。

陸上競技「ハードル走」 学習カード

授業時間	①	②	③	④
月日	9月25日	9月29日	月日	月日
今日の最高タイム	9秒4	秒	11秒6	10秒9
100mタイム	50m	6m	5m	5m
個人目標	2本	本	5本	4本
注意したことを書くためのポイント	○フットワーク ○スタート時の しゃんしゃん ○ハードルの 位置 ○ゴールまで 走り切る	○フットワークは 正確に ○ハードルの 位置 ○ゴールまで 走り切る	○フットワークは 正確に ○ハードルの 位置 ○ゴールまで 走り切る	○フットワークは 正確に ○ハードルの 位置 ○ゴールまで 走り切る
出来た技術	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
友人からのアドバイス			最後は走り by Aさん 走り切る by Bさん	足とまひり by Cさん
教師の指導・指導等	11秒を突破 はいい あおせろ アタ ちうちう	ハードルを あおせろ アタ あおせろ アタ あおせろ アタ	ハードルを あおせろ アタ あおせろ アタ あおせろ アタ	ハードルを あおせろ アタ あおせろ アタ あおせろ アタ

球技「バレーボール」 学習カード

前	目的の場所に運べる・打てる？(4:よくできた……1:できなかった)				
	アンダーハンドパス	オーバーハンドパス	スパイク	ブロック	サーブ
	4 ③ 2 1	4 3 ② 1	4 3 2 ①	4 3 2 ①	4 3 ② 1
	ボールを持たないときの動きができる？(4:よくできた……1:できなかった)				
	準備姿勢	落下点に動く	定位置に戻る	アタック時の助走	ラリー中のカバー
1・2	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 3 ② 1	4 3 ② 1
	①あなたの技術的な課題(身に付けない、上達したいことは？(技能チェックシートを参考に記入))				
	1.スパイクの打ち方 2.スパイクの打ち方				
	明確にする。				
後	②課題解決のためのポイント	アドバイスをくれた人	③アドバイスされたこと		
0	3はスパイクの打ち方 1は声をかけてもらう	Aさん	スパイクの打ち方 1は声をかけてもらう		
4	前回のスパイクの打ち方 1は声をかけてもらう	Bさん	スパイクの打ち方 1は声をかけてもらう		
5	スパイクの打ち方 1は声をかけてもらう	Cさん	スパイクの打ち方 1は声をかけてもらう		



本研究の検証授業は全日制課程の普通科・工業科、定時制課程の普通科・工業科、通信制課程の普通科で実施した。生徒の運動経験、能力、興味、関心等が様々で、事前・事後のアンケート結果に有意な差が見られないのではないかと危惧していたが、アンケートを集計・分析したところ、それぞれの校種で同様の傾向を示し、校種の違いにかかわらず、研究の成果が実証された。

また、個人的運動領域の陸上競技と集団的運動領域の球技で検証授業を行ったが、検証結果において、領域や種目の特性による大きな違いも見られなかった。

以上のことから、適切な言語活動を選択し実践するための学習場面を意図的・計画的に設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し課題を解決する学習活動を重視することで、思考力・判断力・表現力を育成することができたと言える。さらに、言語活動の質的向上は生徒の「学び」を活性化し、知識や技能、思考力・判断力・表現力及び学習意欲をバランスよく身に付けさせ、「確かな学力」の定着・向上を図ることができたと考える。



本研究では、入学年次の生徒を対象に検証授業を行ったが、中学校時に学習経験がなかったり、基礎的・基本的な学習内容が身に付いていなかったりする生徒がいたため、既習の学習内容を振り返る活動に時間を割いた。中でも、今回一定の成果を残せたことは、今後の高校生活での学習において、適切な言語活動を選択し実践するための学習場面を確保し、継続して取り組ませることによって、思考力・判断力・表現力を更に育むことができると考える。

## VII 今後の課題

### 1 成果に関わる課題

#### (1) 発達の段階や校種の接続を踏まえた学習課題の明確化

##### ア 生徒の学習状況や経験の把握

前述の通り、本研究では複数の課程・学科において検証を行ったが、生徒の運動経験、能力、興味、関心等が様々であり、各生徒の既習状況の把握を十分に行うことができなかった。

さらに、生徒の実態に即した指導計画や評価規準、評価計画を立て、適切な言語活動場面を設定するためには、既習状況の把握と基礎的・基本的な学習内容の定着について、アンケート調査やスキルテスト等で確認し復習を行うなど、単元前や導入時に意図的・計画的な振り返り活動を行う必要があった。

##### イ 指導と評価の計画の工夫及び単元構造図の作成

ハードル走では、障害を飛び越すことへの恐怖心を取り除く手立てを必要とする生徒もいたため、ハードル走特有の技能の習得に十分な時間を確保することが難しかった。

バレーボールでは、基礎的・基本的技能が身に付いていない生徒がいたため、勝敗を競う

楽しさや喜びを味わわせるために、用具やルールの工夫が必要な場面が見られた。

今後、生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化の現状を踏まえ、各学校が生徒の実態に応じて各領域において身に付けさせる内容を明確に示すことが必要である。

## (2) 言語活動の充実の工夫

### ア 指導と評価の計画及び学習指導案

意図的・計画的に言語活動場面を設定したことで、単元が進むにしたがい、積極的な言語活動が多く見られた。運動量を確保しながら言語活動の更なる充実を図るためには、各校の生徒及び施設・設備等の状況、授業時間数を踏まえ、目標の設定や指導と評価の計画の作成を行う必要がある。

### イ 学習カード

作成した学習カードを活用できない生徒も一部に見られ、実態に応じた資料の工夫が必要な場面もあった。イラストを多くしたり、詳細に分かりやすく表示したり、ICTを活用して視聴覚資料を提示したりすることで学習内容をより理解させることができる。



### ウ 教師と生徒の相互作用



学習カードの自由記述の内容から、教師の相互作用行動によって、生徒の思考力・判断力の向上は読み取れるが、表現力を高めさせる相互作用行動の実践については課題が残った。生徒の実態に応じて課題解決に向けた発言や文章を表現しやすくするために、学習カード等からポイントを絞った端的なキーワードを例示するなどの工夫が必要である。

## (3) 1時間目終了時及び単元終了時の授業アンケートから明らかになった課題

アンケート結果から、学習カードの内容やその活用においては一定の成果が得られたが、少数ではあるが「アドバイスを求める」や「アドバイスの内容の変化」については、学習カードを活用しきれていないという結果も見られた。学習カードの使い方の説明やコメント等における個別の手立てを丁寧に行っていくことが必要である。

## 2 研究に関わる今後の課題

仮説の立証においては、一定の成果は得られたものの、今後は、高等学校が近隣中学校と連携して指導と評価の計画を作成するなど、更に指導内容の充実を図ることが考えられる。また、今回の研究においては、入学年次を捉え研究を行ったが、高等学校科目「体育」の目標達成のためには、「その次の年次以降」に焦点を当てた研究を進めることが重要である。さらに、指導と評価の一体化を重視するため、高等学校においても観点別学習状況の評価を重視する必要があり、その内容と方法に関わる研究を進めることが、今後の課題である。

## 平成23年度 教育研究員名簿

### 高等学校 ・ 保健体育

学 校 名	課程	職名	氏名
都立一橋高等学校	通信制	主任教諭	小池 秀朋
都立調布北高等学校	全日制	主任教諭	○高見澤 健吾
都立総合工科高等学校	全日制	主任教諭	春木 育子
都立大山高等学校	全日制	主任教諭	安藤 真弓
都立小金井工業高等学校	定時制	教諭	岡村 武志
都立五日市高等学校	定時制	主任教諭	松崎 健一

○世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課  
指導主事 堀川 勝史  
東京都教育庁指導部指導企画課  
指導主事 青木 薫

平成23年度  
教育研究員研究報告書

高等学校 保健体育

東京都教育委員会印刷物登録

平成23年度第181号

平成24年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話番号 (03) 5320-6836

印刷会社 有限会社 シーダー企画